

現行の県計画（H25～29）に基づく主な取組みについて

I 予防の強化と早期発見の推進

(1) がんにかからない生活習慣の確立

<たばこ対策>

①希望する事業者に対する受動喫煙防止ステッカーの提供

【25以前より実施】

※H25年度～H28年度までの累計：415施設、3,090枚配布



受動喫煙防止ステッカー

②がん対策協定締結企業等と連携した世界禁煙デー（5/31）での街頭キャンペーン【25以前より実施】

③大学生を対象に禁煙や受動喫煙防止の呼びかけを行う No Smoking Campus プロジェクト【26新規～】※富山大学、県立大学、富山国際大学で実施

④事業主を対象に職場の禁煙促進を図るトップセミナーの開催【27新規～】※協会けんぽと連携

<生活習慣の改善>

①望ましい運動習慣の定着を図るため、「元気とやま かがやきウォーク」を実施【28新規】

※スマートフォンアプリ『元気とやま かがやきウォーク（歩数計機能）』等により歩数を確認



②食事や運動の体験を通じて、生活習慣改善への意識の向上を図るための1泊2日の「健康合宿」を実施【27新規～】

※開催実績（予定）は、（27年度）富山市内1箇所3回（31名参加）、（28年度）県内3箇所9回（77名参加）、（29年度）県内6箇所12回（予定）

※合宿3ヶ月後の体重・腹囲の変化について（平均 ※合宿3ヶ月後アンケート集計による）

（27年度）体重△3.0kg・腹囲△4.8cm

（28年度）体重△1.2kg・腹囲△6.8cm



28 運動指導時の様子



28 食事指導時の様子

③野菜をもう一皿！食べようキャンペーンの実施【29新規】

・県内のスーパーやコンビニ等と連携し、「野菜をもう一皿！食べようキャンペーン」を展開（8/22～）

・家庭においても”手軽に””おいしく”野菜を調理し、食べることができる野菜たっぷりメニューのプロデュース



※野菜に含まれるカリウムは、体内の余分な塩分の排出を促し、高血圧予防に役立つとされ、また、豊富なビタミンは体の免疫力も高め、食物繊維は便秘を促すだけでなく、血糖値の上昇をゆるやかにするなどの効果が期待できる。

(2) がんの早期発見体制の強化

<市町村が行うがん検診への支援>

①節目年齢や重点年齢検診への助成（受診料負担の軽減）【25以前～】

※節目年齢とは、子宮頸がんは20歳からで他の部位は40歳からの5歳毎の年齢

※重点年齢とは、女性のがんのうち、乳は40代、子宮頸は20～30代までの年齢

②土日検診やレディース検診を実施する市町村への支援【25新規～27】

※11市町村（25富山市、滑川市、小矢部市、26高岡市、魚津市、氷見市、射水市、上市町、27砺波市、立山町、入善町）を支援

③科学的根拠に基づいた、がん検診受診率を向上させる効果的な受診勧奨を実施する市町村への支援【28新規～】

※28年度は、魚津市の大腸がん検診をモデルに実施。大腸がん検診の未受診者を性別や過去の受診歴に応じて分類し、下半期にそれぞれに応じた受診勧奨（イラストを用いた分かりやすいパンフレット等を郵送）を行った。

その結果、下半期の集団検診受診者数は前年度に比較して約2倍となった。



受診勧奨用パンフレットのイメージ

<がん検診の普及啓発>

①関係機関と連携したショッピングセンター等でのがん検診普及啓発キャンペーン【②⑤以前～】

②がん検診受診促進シンボルマークの作成
(啓発用物品への掲載等で活用)【②⑥新規】



キャンペーンの様子

③5月の母の日にカーネーションを配りながら、女性のがん検診の啓発を行う「母の日サセットキャンペーン」を実施【②⑦新規～②⑧】

④デザインを工夫した女性向けのリーフレットの作成【②⑨新規】
※女性が参加する各種イベント等で活用予定



シンボルマーク

<その他>

①企業と連携し、がん検診の普及啓発を行うため、民間企業と「がん対策の推進に関する協定」を締結 (H28年9月現在、17社と締結)【②⑤以前～】

②肺がん検診の体制見直し・撮影用デジタル機器の導入【②⑨新規】

※従来まで、撮影は検診機関、読影は県(厚生センター)で分担していた肺がん検診の体制を見直し、検診機関で一括して実施する体制へ変更した。

※また、撮影時で用いるアナログフィルムをデジタル機器へ更新し、鮮明な画像を用いての読影が可能となり、がん発見率の向上等の効果が期待できる。

③肝炎対策として、厚生センターや県委託医療機関33箇所で無料の肝炎検査を実施【②⑤以前～】

H28年8月には、肝炎検査の普及啓発を目的とした、国の「肝炎総合対策推進国民運動事業」により、スペシャルサポーターである上原多香子氏が知事を表敬し、肝炎検査の必要性に関するメッセージを伝達した。【②⑧新規】



知事表敬時の様子

Ⅱ 質の高い医療の確保

(1) 質の高い医療が受けられる体制の充実

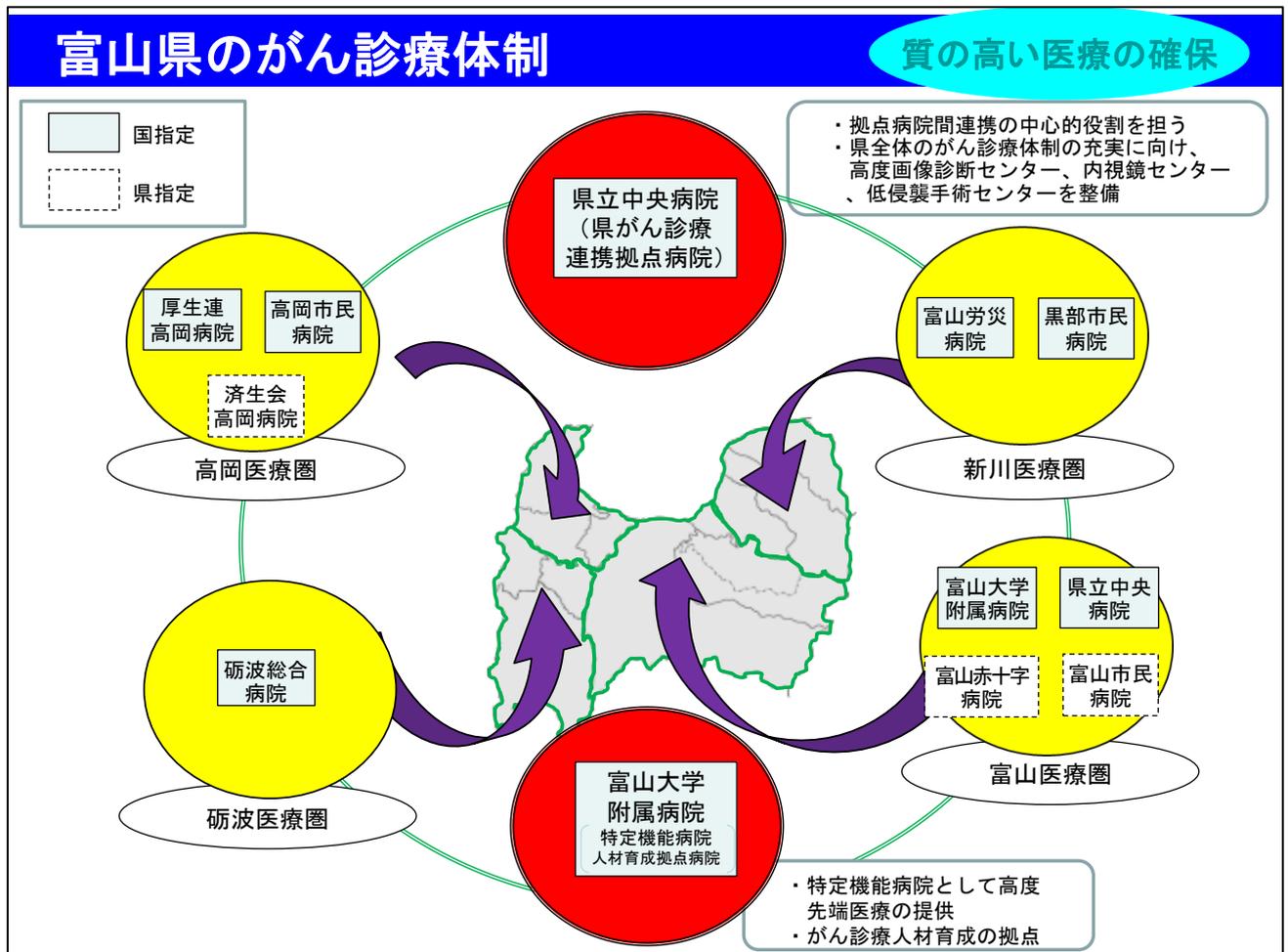
<富山県のがん診療体制の構築>

① 10のがん診療連携拠点病院（(27)指定更新～）国指定7病院+県指定3病院）が連携協力し、二次医療圏毎に集学的医療、緩和ケア、在宅療養支援を提供できる体制を構築。

【(25)以前～】

② 特定機能病院・人材育成拠点病院である富山大学附属病院は、高度先端医療を提供するとともに、専門看護師教育課程で「がん専門看護師」を養成する等、県全体のがん診療人材の育成を推進。【(25)以前～】

(参考：富山県のがん診療体制)



<緩和ケア分野認定看護師教育課程の開講>

①がん医療における質の高い看護の提供を目的に、緩和ケア分野認定看護師教育課程を開講。(北陸初の開講)

【⑳新規～㉓】

※県内の緩和ケア認定看護師数46名 (H28.8月現在)



開講式の様子

<緩和ケア病床の増加>

①緩和ケア病床については、H4年度に県内で15床(県立中央病院のみ)からH29年度には90床まで増加。(H29年度における病院ごとの内訳は以下のとおり)

※県立中央病院(25床)、富山市民病院(17床)、厚生連高岡病院(16床)、高岡市民病院(20床)、富山赤十字病院(12床))

<チーム医療の現状>

①がん診療連携拠点病院では、以下の表のとおり多職種によるがん医療関連チームが設置されている。

	化学療法	放射線療法	口腔ケア	栄養サポート	呼吸ケア	緩和ケア	褥瘡対策	摂食・嚥下
設置病院数	5	3	7	10	7	10	10	5

<県立中央病院におけるがん医療の充実>

①がん等の高度専門医療対応の「先端医療棟」の整備【㉓新規】

ロボット手術などの先進的な手術を行える低侵襲手術センター、高度な生命維持装置を備えた特定集中治療室と救命救急治療室から成る高度集中治療センター、内視鏡による最新の検査・治療を行う内視鏡センター、最先端のMRI・CTを有する高度画像診断センターを配置。



先端医療棟 鉄骨造4階建
延床面積 約 7,500㎡
H28年9月 竣工・稼動

4階 低侵襲手術センター



ハイブリッド手術室

3階 高度集中治療センター



特定集中治療室
(スパーICU)

2階 内視鏡センター



内視鏡室

1階 高度画像診断センター



MRI(3テス)

(2) 調査・研究の推進

①地域がん登録の推進【㉓以前～㉗】(届出件数:㉓8,983件→㉗11,454件)

※平成28年1月より、国の事業として全国一律に実施される「全国がん登録」へ制度が変更

Ⅲ 患者支援体制の充実

(1) がん患者の支援体制の充実

<がん総合相談支援センターの設置>

- ①がん患者及びその家族等からの医療、心理、生活、就労などの様々な相談に対応するとともに、がんに関する様々な情報を提供する機関として、「がん総合相談支援センター」を設置【㉕新規～】

※場所：サンシップ7階

※相談受付時間：月～金（9～16時）土（13～16時）

※がんの看護経験を有する3名のスタッフによる電話や面談での相談

※28年度相談件数1,006件（内訳：心理245件、医療201件、ピアサポーターや患者会等138件）

※社会保険労務士による個別相談（年2回）

※29年度より、9月のがん征圧月間や10月のピンクリボン月間に合わせて、日曜相談会を開催予定（年3回）



がん総合相談支援センターのイメージマーク

②ピアサポーターの養成・育成【㉕新規～】

※ピアサポーターとは、がんを体験した人やその家族などがピア（仲間）として体験を共有し、共に考えることにより、がん患者やご家族等を支える方をいう。

※H29.4月現在、ピアサポーター活動登録数71名

※がん総合相談支援センターの交流サロン（第4土曜日）や、がん診療連携拠点病院（H29.4月現在、5病院で実施）の患者サロンにおいて活動



交流サロンの様子

③がん及びがん患者への正しい理解と命の大切さを認識するためのがん教育の実施

※（H28年度）小学校、中学校、高等学校 計5校の児童・生徒に対して、医師やがん経験者による講義

④がん予防推進員の養成や市町村のがん対策推進員への活動支援

※がん予防推進員を養成するための研修会の開催（H28がん予防推進員数519名）

※市町村のがん対策推進員を対象とした研修会の開催や、がん対策推進員の受診勧奨等に要する活動費用の一部を助成（H28がん対策推進員数5,401名）

(2) 働く世代や小児へのがん対策の充実

<小児がん>

- ①小児がん患者の自立に向けた心理的、社会的支援について、保護者や関係者の理解を深めるための講演会を開催【㉖新規～】

<働く世代（女性）>

- ①「女性のがん対策フォーラム」の開催（29.10.28（土）予定）【㉙新規】

※働く世代の女性ががんに罹患すると、本人はもちろん、家族の生活にも影響があることから、著名人（生稲 晃子氏）による講演やシンポジウムを開催するもの。

※参加者が、女性のがんについて考え、様々な悩みを相談できるブースを設置予定